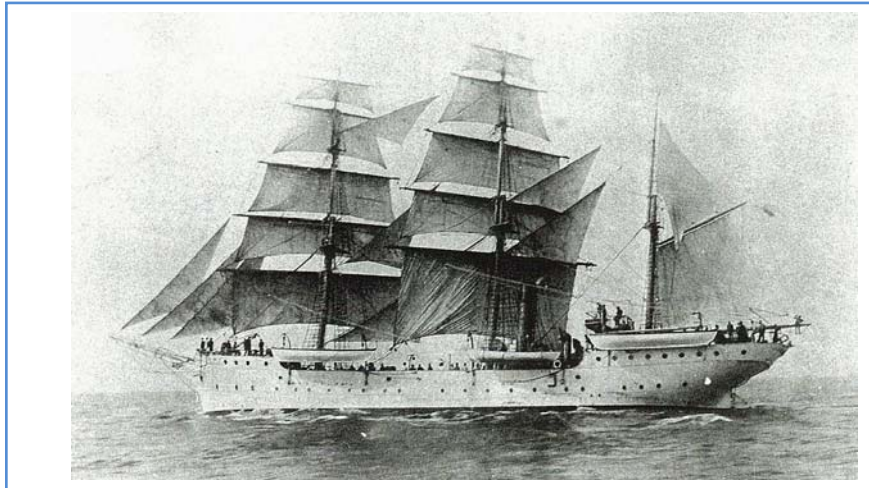


図書館常設展示 第4回

雲鷹丸の歴史

— 就航百周年記念展示 —



場所:東京海洋大学附属図書館(品川キャンパス)

期間:2009年11月6日(金)~2010年2月25日(木)

主催:東京海洋大学附属図書館

表紙の写真：帆走中ノ雲鷹丸。1915(大正4)年卒業アルバムより。

記念展示の見どころ

今からちょうど 100 年前の 1909 (明治 42) 年、雲鷹丸は進水式を経て第一次航海に出航しました。以後約 20 年間、主に夏は北洋、冬は南洋を巡航して 33 次の航海を重ね、600 人余りの水産講習所学生の実習、海洋調査、漁具漁法の試験等を実施しました。

雲鷹丸は漁具・漁法の改良、新漁場の開拓、海洋調査に多大の功績を挙げました。新漁場についてはカムチャッカ漁場の開拓があり、開拓に伴い雲鷹丸船内での蟹缶詰製造に成功しました。海洋調査の成果は漁業基本調査報告に発表されました。また、勇壮な米国式捕鯨実習も行われましたが 1912 (大正元) 年、不幸にも実習中の学生が事故死して以後、実習は中止となりました。雲鷹丸は建造当時一世を風靡し、世界の海を駆け巡ったバーク型米国式捕鯨船を型どった船ですが、現在ではこの型の船型を留めるのは雲鷹丸ただ一隻となりました。このため、1998 年には貴重な海事史資料としての価値が認められ、国登録有形文化財の指定を受けました。

今回の展示では、雲鷹丸をめぐる様々なドラマと、激動の 100 年を生きた船体の歴史に思いをはせていただければ幸いです。写真や書物ばかりでなく、雲鷹丸で使われていた舵輪やテーブルなども展示しました。100 年前のレトロなたたずまいをどうぞお楽しみください。

雲鷹丸のプロフィール

水産講習所の 2 代目の練習船

鋼製二層重甲板三本マスト「バーク」型帆船、三百馬力の補助機関付

総トン数：444.25t 長さ：41.51m 幅：8.55m 深さ：4.96m

最大速力：12.5 ノット 収容人員：81 人

船名の由来

唐の詩人陸龜蒙の「戴海上雲鷹、横空下霜鶻」より。

(海を^き截って雲鷹上り、空を横ぎって^{そうかつ}霜鶻下る。霜鶻ははやぶさのこと)

「東京水産大学百年史」p. 481 より。

年表

- 1907（明治 40）年 9 月 韓国迎日湾で初代練習船快鷹丸難破。
- 1908（明治 41）年 5 月 雲鷹丸造船を大阪鉄工所に発注。
- 1909（明治 42）年 2 月 21 日 進水式（大阪鉄工所櫻島造船所にて）
- 1909（明治 42）年～1928（昭和 3）年 33 次にわたる航海実習実施。
- 1912（大正 1）年 7 月 18 日 捕鯨実習中、学生 2 名が事故死。
- 1914（大正 3）年 6 月頃、カムチャッカ西岸のキクチク沖合で船内にて蟹缶詰製造。
本邦における蟹缶詰製造の初め。
- 1920（大正 9）年 12 月 学生が帆檣から墜落して逝去。
- 1923（大正 12）年 9 月 1 日 関東大震災で被災者約 500 人を救助。
- 1926（大正 15）年 カムチャッカ東岸で蟹刺網漁業及び缶詰製造試験、東カムチャ
ッカ沖合漁場開発の端緒を開いた。
- 1928（昭和 3）年 廃船。
- 1932（昭和 7）年 船内補修改装。終戦まで帆船訓練船として活用される。
- 1945（昭和 20）年 12 月 進駐軍により接收。
- 1962（昭和 37）年 越中島から品川に移設（東京水産大学創立 70 周年記念事業）
- 1969（昭和 44）年～1970（昭和 45）年 復元整備事業
- 1998（平成 10）年 10 月 16 日 文化財保護審議会から雲鷹丸を国の登録有形
文化財とするよう答申。

エピソード 1 快鷹丸遭難

明治 40 年 9 月 9 日、水産講習所初代練習船の快鷹丸は韓国迎日湾で台風のため難破し、教官 1 人、学生 3 人の計 4 人が亡くなりました。当時の様子は「東京水産大学百年史」に次のように記載されています。

大暴風雨の中を風上に向かってタッキングを繰り返し前進を続けたが、午後 3 時ごろにはステー・セールは破れ、次いでメイン・セールも裂け、午後 4 時ごろにはフォア・セールも瞬時にして破れてしまった。（中略）最後まで船内に残って全員の前途を見届けていた黒田教官は、も早これまでと船にいた負傷の吉永教官と池野学生に激励を与えながら、三人共に激浪に飛び込み第一の岩にたどりついた。しかし、池野学生は相次ぐ激しい波に岩から押し流され、ついに急流に巻き込まれ姿を失ってしまった。（中略）吉永教官はすぐ奔流に呑みこまれてしまった。

このように悲惨な遭難によって失われた快鷹丸の代船として雲鷹丸が 2 年後に建造されました。建造計画に最も熱心にたずさわったのは、快鷹丸遭難時に指揮をとっていた黒田教官でした。

エピソード2 松原所長訓示

雲鷹丸が最初の実習航海に出帆するにあたり、水産講習所の松原所長が乗船教官と学生におこなった以下の訓示は、科学に貢献し世界の人材となることをめざして勉学し実行することを説いており、100年後の現在読んでも新鮮です。

本船は単に実習船をして漁業の練習を為すを以て其の目的と為すものにあらず。一方に於ては水産調査船として科学上の貢献を為さんことを期し、他方に於ては事業に関し世界的の人物を作るを以て目的とす。(中略)本船に対し実習船としては贅沢に失すとの世評あり、弁ずるに足らざることながら一応誤解を防ぐ為に本所の主義を述べべし。本所は従来経費の許す限り凡ての方面に於て完備を期し、完全なる設備を以て完全なる人物を作るを大方針とす。蓋し完全に養成せられたる人物にして始て不十分なる境遇に立ち錯誤なきことを得ればなり。諸君も此の意を体し充分に設備を利用せられたし。(中略)学生として且つ紳士としての体面は終局まで之を保持せらるべきは言を俟たず。(後略) (大日本水産会報 323号 1909:9-10より。)

エピソード3 捕鯨実習の事故

大正元年7月18日 金華山沖で捕鯨実習中、手負いのマッコウクジラにボートを引き込まれ学生2名が亡くなりました。この事故により捕鯨実習は翌年から中止となりました。当時のようすは「東京水産大学百年史」に次のように記載されています。

この2号艇の指導者は鎌田武造教官、水夫は鈴木茂三郎、漕手として学生6名が乗艇していた。その着弾した鯨は巨大で猛け猛けしかつたが、最後にはついに弱って海面に横たわった。これで最後であろうと思った途端、海中深く潜った。2号艇は捕鯨網を伸ばすいとまもなく、アツという間に海中深く引き込まれ、乗員は全員、海中に放り出されてしまった。鈴木水夫は艇の浮漂物を求めながら、「みんな固まって、何かに掴まっておれ！無駄な泳ぎはするな」と叫び、救援を待っていた。遠藤政三学生は泳ぎが十分ではなかったもので、しばらくして水中に没してしまった。石切山均学生は水泳が達者であったから、自分が本船に連絡してくると言って、遙か遠方の船に向かって泳いで行ったが、ついに行方不明となった。雲鷹丸はフルスピードで2号艇に向かい、午後0時37分、転覆した艇を発見した。早速、船尾艇を降ろして遭難者6名を救助したが、ついに前記2名の学生は発見できなかった。

(東京水産大学百年史 1989:485-486より。)

エピソード4 関東大震災で被災者約 500 人を救助

大正 12 年 9 月 1 日午前 11 時 58 分、関東大震災が発生しました。当時、月島に停泊していた雲鷹丸は被災した約 500 人の人を救助しました。当時の雑誌記事からその様子を紹介します。

我が水産講習所の練習船雲鷹丸はオコツク海の遠洋漁業実習を終り八月下旬帰着して隅田川口の月島三号地に碇泊していた。折柄九月一日の劇震と大火に深川本所浅草日本橋京橋付近は猛火の海となり火に包まれた市民は争うて船に乗り隅田川を逃げ降った。時と共に火は益々猛烈となり船はいよいよ多くなって、さしもの隅田川も避難船で埋められてしまった。この時に業火は月島と築地の両側から魔の手を拵げて一艘、二艘、三艘、、、見る見るうちに幾百艘の避難船を焼きつくし数万の人命を奪った。これらの焼け船は紅蓮の焰に包まれながら雲鷹丸の舷側に漂流して来たので全員必死となって焼船をつきのけ船内に降りくる火の粉を消しながら水に溺れ火に焼けつつある市民五百余人を助けた。中には二三日前に分娩したばかりの赤子をつれた産婦もあった。(中略)「船の三面は焰の海となって雨よりも繁く火の粉を降らせる。大気は火熱のために非常な熱度を持っているから休みなく水をかぶっては船内全部に散水するがたちまち乾いてしまう。上流からの焼船は後から後からと漂流してくる。それをつきのけながら哀れな同胞五百余人を救助したのだから乗組員の努力は英雄的というよりはむしろ神人を超越していた」という山本雲鷹丸船長の言葉によっても其の一端を察し得るであろう。(後略)

(震災に殊勲を現した雲鷹丸. 水産 1923; 11(18): 22-23 より。*旧仮名遣いの部分は現代仮名遣いにした。)

エピソード5 雲鷹丸の業績

雲鷹丸の主な業績は、蟹缶詰加工試験の成功とカムチャッカ漁場開拓で、ともに遠洋漁業を行う水産業界に大きな成果をもたらしました。蟹缶詰加工試験については文献に次のように記載されています。

船内にて蟹缶詰を製造したのは、水産講習所の練習船雲鷹丸が大正 3 年 6 月頃、カムチャッカの西岸にあるキクチク沖合に於て、同所の学生が実習して 170 尾のタラバガニを漁獲したものを教官鎌田武造指揮のもとに製造したのを以って嚆矢とする。

(蟹罐詰發達史 / 蟹罐詰發達史編纂委員会編 ; 岡本正一編著. 霞ヶ関書房, 1944:611)

また、カムチャッカ漁場開拓についても同書に、大正 15(1926)年 雲鷹丸が工船組合と連絡試験を行い、高山伊太郎が乗船してカムチャッカ東岸で蟹刺網漁業及び缶詰製造試験をしたことが記載され、東カムチャッカ沖合漁場開発の端緒を開いたとされています。

エピソード6 廃船から文化財指定へ

昭和3年に雲鷹丸は廃船となり、その座を白鷹丸に譲りました。雑誌「水産界」には次のような短い記事が掲載されています。

水産講習所の練習船として、明治42年以降20年間の久しきに亘り、漁業の試験と生徒の実習に諸多の挿話をもつ雲鷹丸は去月末惜しくも廃船となった。

(雲鷹丸の廃船 水産界 553号(1928):680)

廃船後は係留されたまま、実習用として使われていましたが、昭和20年、進駐軍に接収されてからは荒れ放題のまま放置されていました。しかし、昭和37年、東京水産大学創立70周年記念事業として品川に移設され、平成10年には貴重な海事史資料としての価値を認められ、国登録有形文化財の指定を受けました。品川キャンパスに保存された雲鷹丸は、モノレールや高速道路からも良く見え、海の大学・東京海洋大学を多くの人々の心に印象付けています。

展示資料

○アルバム、ノート、写真など。

- 1 雲鷹丸ノート [大阪鉄工所ニ於テ雲鷹丸造船中其艤装一切ノスケッチ] [東京海洋大学水産資料館蔵]

表紙に「大正十年八月十日雲鷹丸釜石入港ニ際シ記念ノ為メ之ヲ寄贈ス秋山」と記されている。また、最初のページに「本書ハ大阪鉄工所ニ於テ雲鷹丸造船中其艤装具一切ヲスケッチセルモノナリ」と記されている。鉛筆書きの詳細なスケッチである。

- 2 大正15年雲鷹丸アルバム [東京海洋大学水産資料館蔵]

表紙には大正十五年とあるが、最初のページに「昭和9年10月8日、篠山集ム」と書かれており、1909～1910を始めとする数回の航海の写真を集めて貼付してあると思われる。雪の山を背景にした雲鷹丸の写真が珍しい。

- 3 1909-1910 雲鷹丸航海記念アルバム [楽水会蔵]

金華山沖の捕鯨ボート、船側での鯨の解剖、天測実習、ミクロネシアのポナペ島やニューギニア・サイパンの人々との交流の写真など興味深い写真が多い。

- 4 雲鷹丸甲板写真 1909(明治42)年～1911(明治44)年頃のものと思われる。

○文献

- 5 水産講習所一覧 自明治42年7月至明治43年6月 1910
- 6 東京水産大学七十年史 東京水産大学創立七十周年記念会, 1961

- 7 蟹罐詰發達史 / 蟹罐詰發達史編纂委員会編；岡本正一編著. 霞ヶ関書房, 1944
- 8 漁業基本調査報告 3(1913) 農商務省水産講習所
- 9 雲鷹丸の歴史 楽水会, 1970
- 10 雲鷹丸 楽水会, 1998
- 11 二久会ニュース 12号, 2000

○ゆかりの品々

- 12 絵葉書 楽水会発行
- 13 文化財紹介絵葉書 東京都教育庁発行
- 14 雲鷹丸記念歌楽譜
- 15 楽水会 75周年記念水産歌集 CD

○雲鷹丸で使われていた品々 [東京海洋大学水産資料館蔵]

- 16 舵輪
- 17 戸棚
- 18 テーブル
- 19 鋳
- 20 ボンプランス銃 (ショルダーガン)

雲鷹丸に関するホームページ

このたびの展示を機に図書館ホームページで雲鷹丸航海日誌及び関係資料を公開しました。内容は航海日誌、年表、航海一覧、文献リストなどです。中でも航海日誌は当時の様子が目の当たりにわかる貴重な記録です。どうぞぜひご覧ください。ホームページに載せた資料の作成・提供については大塚一志氏(2漁大)にご協力いただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

雲鷹丸に関するホームページのアドレス：

<http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/library/daigakushi/Unyo-maru/index-un.html>

展示資料協力 東京海洋大学水産資料館 楽水会

図書館常設展示 第4回 雲鷹丸の歴史—就航百周年記念展示—

発行日 2009年11月6日 編集・発行 東京海洋大学附属図書館 〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7

TEL 03-5463-0444 FAX 03-5463-0445 <http://lib.s.kaiyodai.ac.jp> ©東京海洋大学附属図書館
